



## みぬまニュース

### さいたま市立中央図書館に 「見沼たんぼコーナー」開設

さいたま市立中央図書館に「見沼たんぼコーナー」が平成21年3月に開設されました。このコーナーでは皆様から寄贈していただいた見沼たんぼ関連資料を順次公開しています。

さいたま市立中央図書館では、引き続き、図書・雑誌をはじめ、散策マップ・パンフレット・リーフレットや、広報紙等の定期刊行物・見沼たんぼ関連の報告書等を収集しています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



見沼たんぼコーナー

(問い合わせ先) さいたま市立中央図書館 資料サービス課資料整理係(地域資料担当) 048-871-2100(代)

### 第38回 自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』 5月16日(土)

見沼たんぼの南部を対象に多くの野の花の観察し、又、キジ・ウグイス・オオヨシキリなどの鳴き声を聞き、今から3百年近く前の江戸時代八代将軍吉宗(1716~44)治世に1200町歩の水田開拓に携わった大勢の人々の努力によって開削され利根川から取水して流れる見沼代用水に沿って歩き、浦和くらしの博物館民家園、太子堂、國昌寺などに寄りました。更に、見沼たんぼくらぶ体験農園予定地(緑区大字見沼)では見学並びに説明を受けました。花の咲いている野草は80余種に達し、中でもイヌムギ・ネズミムギ・ムギクサなどイネ科の種が多く32種にもなります。キク科の種も次いで多くカントウタンポポ・キツネアザミ・ハハコグサなど14種ありました。イヌスギナも見つかりました。花の咲いている木は20種程度あり、イボタ・マユミ・エゴノキ・ミズキ・ノイバラなど白い花が多く咲いていました。太子堂の近くには、珍しいモンキーパズル(チリマツ)があり枝先に卵形の球果を付けていました。ブルーベリー・クワ・モモなどには実がなっていました。

(若野忠男)

### 見沼ふれあい農園づくり ファミリーでどうぞ!

今年度、見沼たんぼくらぶでは、「見沼ふれあい農園づくり」を行います。埼玉県公有地(さいたま市緑区見沼610及び613、約2,050㎡)地内の農地を活用し、一般参加者と一緒に秋野菜(大根、白菜、にんじん等の予定)とナタネ(菜の花)の栽培を行います。のんびりと土に親しむ野菜づくりを楽しみませんか!

第1回は9月12日(土)に秋野菜の種蒔きを行います。その後は、10月から12月の間、毎月2回(土・日)除草から収穫までを行います。子どもづれのファミリーでの参加も大歓迎です。申込方法は裏面の「見沼たんぼくらぶイベント案内」をご覧ください。(事務局)

### 特別企画・見沼たんぼ学習交流バスツアー 『座間谷戸山公園の里やま』(神奈川県座間市)

見沼たんぼくらぶでは昨年度に引き続き、「見沼たんぼ学習交流バスツアー」を実施します。申込方法は裏面の「見沼たんぼくらぶイベント案内」をご覧ください。

今年度は、座間谷戸山に残された雑木林と田圃、湿地、溜め池、湧水などの里やまを神奈川県が県立公園として保全した先進的な自然緑地を見学します。

また、市民団体の見沼たんぼにおける活動事例を発表し、交流を行いますので。発表いただける方は、7月31日までに事務局にご連絡下さい。(事務局)

### 見沼たんぼの四季 『見沼の夏』

#### 見沼の夏は緑で埋

まります。まぶしい陽射しの中、少なくなったとはいえ、「木下闇(このしたやみ)」という言葉思い出さうな一角を見出すこともできます。田んぼ



深い森の木陰

では稲が青々と茂り、穂をつけ始めます。木陰で風の涼しさを感じながら、ちょっと耳を澄ませてみてください。あちこちから鳥や虫たちの様々なおしゃべりが聞こえてくるはず。宵には、有志によって育てられた蛭を楽しむ催し等も開かれ、かつての見沼の姿を垣間見することもできます。暑い夏の日を、見沼でちょっとさわやかに過ごしてみませんか。(高橋)

## 会長就任に当たって

見沼たんぼくらぶ会長 新井一裕



このたび、皆様のご推挙を受けて会長に就任いたしました。浅学非才の身ではございますが、会員各位のご支援をいただきながら、職責を果たしてまいり所存でございます。

私は、県環境部長在職当時、「緑のトラスト基金」で見沼斜面林を第1号地として取得いたしました。その後、基金による取得地は着実に増えてきています。優れた自然を我々の子孫に残していくことはまことに重要なことです。「公害防止」の時代から「環境保全」の考え方に変わって久しくなりましたが、自然を守り、創造していくことは、人間のみならず全ての生物にとって喫緊の課題であると思います。

わずかに首都圏に残された「見沼たんぼ」を守り、愛していこうという私たちの活動は、多くの人々の同感を得て支援の広がりは益々高まっています。見沼を愛する諸団体と協調を図りながら、より一層の努力を尽くしていこうではありませんか。

私としましても、先ほど急逝された野崎前会長の遺志を受け継いでまいりますので、重ねて皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

## 見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

### 「第26回大盆栽祭り」行われる

大盆栽祭りは5月3日(日)から5月5日(火)までの3日間、さいたま市北区「盆栽村」において開催されました。盆栽村は三方向をJR宇都宮線、東武野田線、産業道路に囲まれており、東武野田線「大宮公園」の改札口を出た先に位置しております。



大盆栽祭り

この大盆栽祭りは、昭和59年(1982)から毎年開催されており、今回で26回目を迎えました。村内には「かえて通り」、「もみじ通り」...等の碁盤の目を思わず道路が縦横に走り、7軒の盆栽業者の方の「園」が10万坪を越す広い村内に点在しております。

盆栽村は、環境の悪化と関東大震災の影響を受けた東京の盆栽業者の方が、盆栽作りに適した理想郷を求めて、大正14年(1925)、移住してきたのが始まりとされております。種々の苦節を伴いながら、今に見る整然とした「盆栽村」を築きあげ、四季を通じて我が国を代表する盆栽郷に成長しております。

村内においては10数万本の盆栽が育成され、盆栽教室等も開催されており、国内はもとより世界各国からの愛好者の訪問があり、年々その賑わいを増しております。

黄金週間の3日間の盆栽祭りであって、繰り出した人の数と言ったら相当な数で、村内の何れの道路の両側も、盆栽、盆器、山野草等の「市」が立ち並び、沢山の盆栽の作品も展示されておりました。村内は人、人、人で埋め尽くされ、気に入った盆栽を買って行く人、それぞれの品に感心を寄せる人、立ち止まってはその場を離れない人...等、色々な姿が見られます。

盆栽は、大自然の中の景色を鉢の中に納めた1本の木で現わしており、観る人に感動と安らぎを与え、正に、「生きた芸術」と言われている通り...と思いながら、盆栽祭りを楽しみました。(召田紀雄)

次のようなタイプに区分されます。

## 見沼たんぼの植物

### － つる性植物 －

見沼たんぼには、多くの植物が生息しています。今回は、見沼の斜面林、河川敷や垣根などでよく見かけるつる性植物について述べます。普通の植物は幹を丈夫に育て上に伸ばし、より多くの太陽光線を受け生長しますが、つる性植物は幹づくりをあまりせず、その分つるを支柱となる木やフェンスなどを頼りに勢いよく伸ばし、日の当たる場所に達すると、枝葉を広げる要領のよい植物群です。これに覆われた植物は光が当たらず枯れてしまうことさえあります。ヤブカラシの名はその典型です。

これらの植物は斜面林でよく見かけますが、これにより林の中に風や光を直接入らないよう林を守る働きをする良い面をも持っています。平成19年9月大宮第二公園で観察したこの植物達は45種でした。この植物は様々な方法でつるを伸ばしますが、



スイカズラ

巻き付き型：茎を支柱に巻き付くもの。巻き方向は種類によってほぼ決まっています。上から見た場合の巻き方向では、時計回りのものが右巻き、その逆が左巻きになります。左巻きがアケビ、ガガイモ、コヒルガオなど21種あり、右巻きはオニドコロ、スイカズラなど6種でした。

絡ませ型：巻きひげで絡ませるもの、葉・葉柄で絡ませるものの2つの型があります。巻きひげはアマチャズル、アレチウリなど9種、葉・葉柄はヒヨドリジョウゴのみでした。クレマチスもこの仲間です。なお、巻きひげの場合、アレチウリなどのように巻き方が途中で逆になり、伸び縮みに充分耐えられる仕組みはさすがです。

引掛け型：茎に逆さ向きの棘や曲がった鉤があり、これを他の植物などに引掛けてよじ登るものです。イシミカワ、ママコノシリヌグイ、ミゾソバの3種でした。

張り付き型：水浴中部屋林の中の大木にもよじ登ることができる吸着根や吸盤をもつタイプ。吸着根の有るものにキズタ、ノウゼンカズラがあり、吸盤はナツズタとこれらで3種でした。

寄掛かり型：よじ登るための特別の道具は持たないが、他の植物に寄り掛かったり、枝の股を支えとして利用しながら伸びる。ナワシロイチゴやノイバラの2種ですが、これらには棘があるが、茎を固定する役割は持っているようです。

(NPO 法人自然観察さいたまフレンド 若野忠男)

## 見沼たんぼの動物

### － 芝川左岸第7調節池は水の生き物の楽園 －

見沼溜井の代わりに造成された見沼代用水は、三面コンクリート護岸に改修されたため、水の生き物の繁殖が難しくなりました。いま、芝川の水量を調節する目的で造成された調節池が、溜池のように、水の生き物の生息・繁殖に役立っています。

その最たるものが大和田緑地公園斜面林と芝川の間にある芝川左岸第7調節池です。生活排水も農業排水も流入しないで、湧水からの伏流水が流入しています。そのために、止水域にもかかわらず、溶存酸素が多く、汚濁も比較的少ないことで、多様な水の生き物が生息し、繁殖しています。

メダカもテナガエビもクサガメも……

私が確認した種を列挙すると次の通りです。

魚のなかま：ギンブナ・ヘラブナ（ゲンゴロウブナを改良した飼育種）・コイ（野生種を改良した飼育種）・モツゴ（俗名クチボソ）・ドジョウ・ヌマチチブ（俗名ダボハゼ）・メダカ・カダヤシ（北米原産蚊の幼虫を食べることで渡来）

エビのなかま：テナガエビ・ヌマエビ・アメリカザリガニ（北米原産 ウシガエルの餌用に渡来）

カエルのなかま：アズマヒキガエル・ウシガエル（北米原産 食用蛙として渡来）・トウキョウダルマガエル・ニホンアマガエル

カメのなかま：クサガメ・ミシシッピーアカミミガメ（北米原産 幼体のミドリガメをペット用に渡来）  
(NPO 法人自然観察さいたまフレンド 小野達二)



# 新釈見沼民話 見沼の竜の語り草

宮田正治

## 天沼神社の金竜伝説と大日堂

きょうは、天沼町一丁目の天沼神社の話しようかのう。その後、深いつながりのある大日堂の話も聞かせよう。どちらにも、竜が出てくるのだから、面白いぞよ。

まずは天沼神社の話じゃが、この神社には祭神とされている神がたいへん多いのじゃ。そもそもこの神社は、始めは『熊野神社』と呼ばれていたものじゃ。明治四十年になって村内の六社を合祀して『天沼神社』となったわけじゃ。このような、神社の統合とか合祀ということは明治年間に全国各地で行なわれたことで珍しくはないのじゃが、八幡神社、<sup>ほろそつ</sup>稲荷神社、<sup>ほろそつ</sup>疱瘡社、弁天社、市神社などが熊野神社と同居したのだから、さぞ賑やかになったことじゃろう。

初めの話は、こう賑やかになる前の熊野神社にまつわる話なのじゃ。

昔、この天沼の村に、弥兵という正直者の百姓が住んでいた。わしもよく知っている男で、真真正直で信心深く、よく働く百姓だった。

ある年の冬のこと、弥兵の一人娘が『クチュムキ』という子供にとっては大敵の病気にかかってしまった。このクチュムキというのは今の『百日咳』のことで、治りにくい伝染病なのじゃ。これにかかると烈しい咳が出て、特に夜は見ていられないほど苦しむ。しかも名前のごとく百日近くも続くとは、子供も親もたまったものではない。しかも、特効薬のようなものは何もない時代のことじゃ。

弥兵は夢中で看病した。また、日頃信心している熊野神社に一心に祈った。

どうか娘の病気を治してください、この苦しみを取ってやってください、病気を私に代わらせてください……とな。

この祈りが通じたのか、或る晩、弥兵の枕元に金色の竜がしゃもじを持って現れた。「きょうから三、七、二十一日間、熊野神社に日参し、娘の平癒を祈るがよい。娘が治ったなら、このしゃもじを納めてお礼参りをしなさい。」

こう言い残して竜は姿を消した。翌朝、弥兵の枕元には、不思議なことに一本のしゃもじが置かれていた。弥兵は言われたとおり日参を始めた。すると、娘の病は日毎によくなっていった。そして二十一日目、全快した娘を連れた弥兵は、しゃもじを熊野神社に供えてお礼参りをした。

この話はたちまち人々に広まり、子供がクチュムキにか

かると、その親は熊野神社からしゃもじを借りて日参して祈り、治ると新しいしゃもじを供えてお礼参りをするようになったということじゃ。

どうじゃな。皆はこれを信じるかな？どちらでもよいが、神社にいくと、拜殿の左の方にある舟形の石の社に、数本のしゃもじが供えられているのを見ることができよう。新しいしゃもじはないようじゃが、それは、信仰の形が変わったというより、百日咳という病気が、ワクチンの特効によって激減したからであろうとわしは思っておる。

さて、次は大日堂の話じゃ。この寺は真言宗の古寺であるが、戦国時代の末期に消失したのじゃよ。後に村民の手によって再建され、江戸時代の領主、大岡氏の墓があるのじゃが、それよりも高さ二メートル余の大<sup>いたひ</sup>板碑が有名じゃ。この大板碑、旧大宮市では最大のもので、建立年代は建治二年(一二七六)となっているので、鎌倉時代の半ば、元軍が博多沖に現れた頃の<sup>いたいしとうぼ</sup>板石塔婆じゃ。

こういう遺物を大事にしているという人間には感心するが、ここの墓地の東南に聳えるシイの大木も見事じゃ。根元に石の地蔵さんを抱くように抱えており、『子宝のシイ』と呼ばれておるのじゃ。

話によると、昔、この寺の住職となった僧が、シイの木の下で苦しむ地蔵さんの夢を見た。不審に思って、翌朝根元を掘ってみると、顔と手足のない地蔵が出てきたというのじゃ。「これでは地蔵さんもつらからう」と、顔や手足をていねいに修復してシイの根元に建てなおしたとのことじゃ。そして、それから何十年も経つうちにシイはますます大きくなり、今のような形になった。伝説のような、事実のような話じゃが、気持ちがおぼのぼのと温かくなる話じゃな。ぜひ、ここまで足を運んでほしいと、わしは思っておる。

大日堂に関わるもう一つの伝説は、見沼干拓奉行、井沢弥惣兵衛とわしとの話じゃ。証拠の書類や品物は何も無いらしいが、人間の想像力の産物じゃによって、伝えられるまを語るとしよう。それは、こういう話じゃ。

見沼の水を干して田んぼにするという工事が始まり、沼の水がどんどん減り始めたのを見て、見沼の竜……つまりわしじゃ。わしが、若い娘に身を変えて、この大日堂に奉行を訪ねたというのじゃ。奉行は熱を出して寝ていた。見沼の竜は看病しながら干拓の中止を訴えた。ところが奉行は承知しない。娘はあきらめてすすぐと帰った。ところが宿直の侍が、昨夜、奉行の部屋をの

ぞいたら、大きな竜が奉行の体を舐め回していたと話したので、みんな気味悪がった。そして直ちにこの事務所を片柳の万年寺に移したというのじゃ。どうじゃ、いずれも面白い話よのう。

今回の話はここまでとしよう。(終わり)

(見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載)

お詫びと訂正

38号の「新釈見沼民話 見沼の竜の語り草」のお話のタイトルを「見沼のいかり草」とするべきところを誤って「見沼弁財天宗像神社 後編」と記載しておりました。

会員の皆様と著者の宮田先生に謹んでお詫びさせていただくとともに、訂正させていただきます。

# 見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

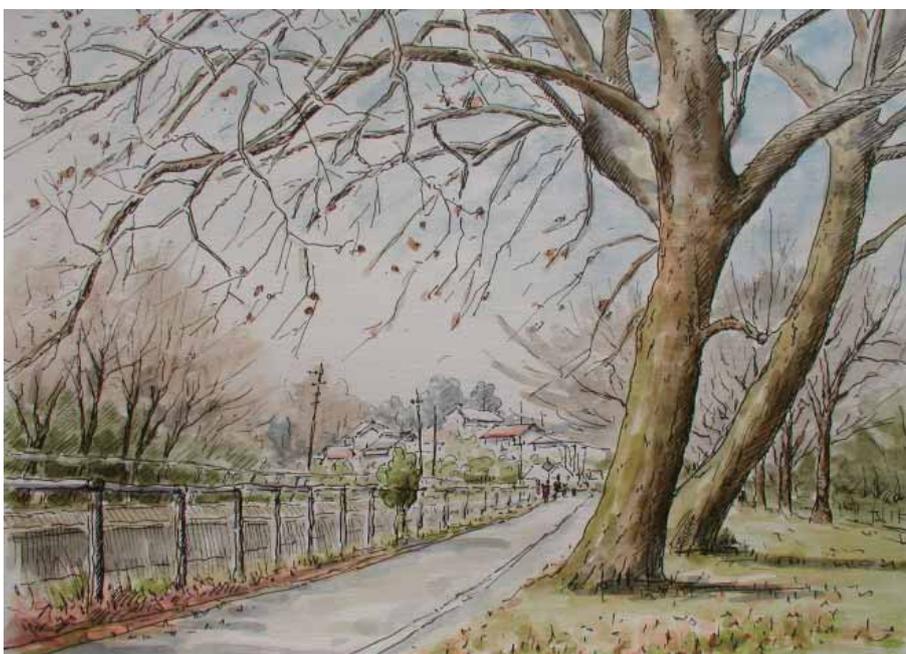
絵と解説 八木一郎



「万年寺・為永翁 顕彰碑」

(見沼区・片柳)

見沼たんぼを開墾した井沢弥惣兵衛為永翁が宿泊所にしたといわれる。為永翁の功績をたたえる顕徳碑が建てられており、今でも見沼代用水の工事関係者は事あるたびに詣でて、安全祈願をするという。



「見沼代用水・東縁」

大崎公園の南、東縁が緩やかに流れる。鈴懸けの木(プラタナス)の特徴ある大粒の実(集合果)が、澄み切った冬空に賑やかさを演出してくれる。

# 見沼たんぼの仲間たち No. 14

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

## さいたま市みどり愛護会大牧支部

### 大牧自然緑地を守る「大牧支部」の活動

#### 大牧自然緑地の豊かな緑

見沼たんぼ周辺の緑は年を追うごとに少なくなってきました。特に見沼たんぼ西縁の斜面林は近年、加速度的に消滅しつつある中で見沼代用水西縁の高間ヶ原橋と大牧橋のなか程にある西側斜面林、そこから最勝寺に隣接する台地までの約7千平米の雑木林が、その存在を誇っています。

ここ大牧自然緑地は、この地域では飛びぬけて樹木の種類が豊富でその数も多く、このあたりに残された貴重な森です。

樹木の本数は300本を越え、種類はアカシデ、コナラを主力にシロダモ、ヒサカキ、イヌシデなど30種ほどを数えます。中でもコナラの大木はこの森のシンボリック的存在です。

#### 次世代に繋がる若木の育成

落ち葉のシーズンには周囲の方々からの苦情が大変ですが、真夏でも森の中に足を入れると空気がヒンヤリと感じます。隣接の自治会住民有志が主力で総勢20名が登録されていますが中には浦和区の方も参加しています。毎月第4土曜日、落ち葉のシーズンは月に2回の作業に10名前後の会員が集い森の整備を進めています。



苗木の植え付け

昨年と今年の2回、クヌギやコナラの苗をみどり愛護会大和田支部のご好意で手に入れて、次世代に繋がる若木の生育に努めています。出来ることなら我等作

業部隊の中にも若木を増やしたいと努力を怠らないでいますが、こちらの方は他地区からの移植は出来ず、地元での定着も儘ならない状況です。

#### オオムラサキが舞う森をめざして

この1、2年は、久しく目にする事が出来なかったハグロトンボが、川沿いの森の中をそこかしこに飛んでいる姿が見られるようになりました。

水辺に面した自然林ならではの昆虫類が少しづつ戻ってきている予感がします。

更に、会員の中から「昔はこの辺りでオオムラサキが見られたよ」と語る古老の話から、その復活を夢見て環境改善に取り組むことになりました。

市の配慮で森の川沿い部分にオオムラサキの幼虫が好むエノキを5本植えて頂き、日当たりの良い場所では元気に成長しています。今年は、近くで造園業を営む支部会員の方が10本のエノキを提供して下さる事になりました。これが大きく育ち、オオムラサキが、この森に舞う姿を想像しながら作業に励む会員達の姿が楽しそうに映りました。



歩道の手直し

さいたま市みどり愛護会大牧支部

新村 能溥人

## 浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示活動

- ① 大英博物館出品記念企画展「人面画付土器と縄文人の顔」  
期間：7月7日(火)まで  
内容：埼玉県指定文化財「人面画付土器」を中心に市内出土の縄文時代後晩期の土偶などを紹介するミニ企画展示
- ② 企画展「夏休み子ども博物館」  
期間：7月18日(土)～8月30日(日)  
内容：小学生を対象に、見沼通船堀、縄文人の顔、大昔の人々のくらしなどをテーマにしたミニ展示

### 2 三室地区定例探鳥会

日時：7月19日、8月16日、9月20日(毎月第3日曜日)  
9時00分～12時00分(雨天中止)  
集合：9時に浦和博物館  
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ/主催：日本野鳥の会埼玉県支部  
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

### 3 教育普及事業

- ① 「昔のおそび」 7月24日(金)～7月26日(日)、28日(火)  
時間：10:00～12:00、13:00～15:00  
内容：竹馬、ペーゴマ、おはじき、竹トンボなど昔の子どものおそびに挑戦。  
参加費：無料(自由参加)
- ② 「クイズ大会」 7月25日(土)  
時間：10:00～12:00、13:00～15:00  
内容：館内の展示を見て、クイズに答えよう。すてきな景品付き。  
参加費：無料(自由参加)
- ③ 「昔のおもちゃ作り」 7月26日(日)  
時間：10:00～12:00、13:00～15:00  
内容：「かざぐるま」を作ってあそぼう。  
参加費：30円(材料費)(自由参加)
- ④ 「文化財さがし」 8月1日(土)～8月30日(日)  
内容：博物館の中にある文化財をさがしてみよう。
- ⑤ 「見沼通船堀のしくみ」 8月8日(土)、8月9日(日)  
時間：11:00～11:30、14:00～14:30  
内容：博物館の中にある模型を使って実験する。

## 浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### ① 講座

No	講座名	月日	材料費	申込み
1	家族の湯のみ茶碗作り	7月24日(金)	1200円	A
2	鬼瓦風の表札作り	7月25日(土)	1200円	
3	70-リングで履く布ぞうり作り	7月28日(火)	100円	
4	お化け屋敷を作るI	7月29日(水)	500円	
5	藍染めで絹のハンカチ作り	7月30日(木)	600円	B
6	竹の水鉄砲作り	7月31日(金)	100円	
7	お化け屋敷を作るII	8月1日(土)	500円	
8	UFOを作る	8月2日(日)	500円	C
9	渋うちわ作り[全2回]	8月4日(火)・5日(水)	800円	
10	七夕講座	8月6日(水)	100円	C
11	風で動くおもちゃ作り	8月7日(金)	500円	B
12	タマネギ染めで手ぬぐい	8月9日(日)	500円	C
13	藍染めで絹のストール作り	8月11日(火)	1800円	
14	世界遺産作り	8月18日(火)	500円	D
15	竹のおもちゃ	8月19日(水)	500円	
16	木の実のおもちゃ	8月20日(木)	500円	
17	紙紐の花籠を作る	8月21日(金)	800円	
18	貯金箱作りI	8月22日(土)	800円	E
19	貯金箱作りII	8月23日(日)	800円	
20	木の独楽作り	8月25日(火)	500円	

時間：講座1、2は13:30～15:30、その他は9:30～12:00  
対象・人数：講座3、13、17は、中学生以上一般20人、それ以外の講座は、子どもとその保護者10組  
申込み：A 往復はがきで7/15(水) 必着、B 往復はがきで7/20(月) 必着、C 8月1日(土) から電話で先着順、D 往復はがきで8/10(月) 必着、E 往復はがきで8/15(土) 必着

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 主催事業

- ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)  
和紙で何かを作ろう! 7月8日(水) 14時～16時 8名  
韓紙で何かを作ろう! 7月10日(金) 14時～16時 8名  
はじめての琴 7月12・19日、8月2・9・30日(全5回) 空蟬組13時～15時、蜻蛉組15時～17時  
はじめて学ぶ俳句 7月15日(水) 10時～12時 8名  
※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。
- ② 公開講座(定員なし/無料)  
新論語教室⑤「ガリレオ」 7月7日(火) 14時～15時  
温風至る(童謡合唱) 7月11日(土) 14時～16時  
新論語教室⑥「ルソー」 7月20日(祝) 14時～15時  
くらしっく歌声喫茶 8月14日(金) 14時～16時  
新論語教室⑦「ウィリアム・モリス」 9月8日(火) 14時～15時  
草露白し(童謡合唱) 9月11日(金) 14時～16時  
邦楽と舞の鑑賞-伝統美・芸妓の技- 9月12日(土) 17時～19時  
新論語教室⑧「トルストイ」 9月22日(火) 14時～15時
- ③ 年中行事の公開(定員なし/無料)  
初山の朝まんじゅう 7月1日(水) 10時～12時  
七夕馬と昼饅頭 7月7日(火) 10時～12時
- ④ 小学生夏休み工作教室(定員なし/要事前予約/無料)  
オープン粘土で勾玉・白玉を作ろう! 7月24日(金) 10時～12時  
竹で作ろう! 「水鉄砲」 8月5日(水) 10時～12時  
竹で作ろう! 「花瓶」 8月8日(土) 10時～12時  
竹で作ろう! 「そば猪口」 8月12日(水) 10時～12時  
竹で作ろう! 「そば皿」 8月15日(土) 10時～12時  
竹で作ろう! 「靴べら」 8月19日(水) 10時～12時  
竹で作ろう! 「箸」 8月22日(土) 10時～12時  
竹で作ろう! 「竹ぼっくり」 8月23日(日) 10時～12時  
竹で作ろう! 「ひしゃく」 8月26日(水) 10時～12時  
竹で作ろう! 「竹とんぼ」 8月29日(土) 10時～12時
- ⑤ 小学生体験講座(定員なし/要事前予約/無料)  
小学生集まれ! 外遊びを体験しよう!! 7月25日(土) 10時～12時  
「昔の家・昔のくらし」たんけん①② 8/8、9/12 10時～12時  
昔の室内遊び「五目ならべ」 9月13日(日) 13時～15時  
昔の室内遊び「挟み将棋」 9月19日(土) 13時～15時  
昔の室内遊び「将棋くずし」 9月20日(日) 13時～15時  
昔の室内遊び「将棋倒し」 9月26日(土) 13時～15時  
昔の室内遊び「まわり将棋」 9月27日(日) 13時～15時

### 2 企画展示

「紙の造形」 6月9日(火)～7月12日(日)  
「カップ&ソーサー」 7月14日(火)～8月30日(日)  
「将棋」 9月1日(火)～10月4日(日)

## 農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026  
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### ① 子供動物園スタンプラリー

期日：9月12日(土)～9月17日(木) 10時～16時  
(ただし、14日(月)は休園日のため休み)  
会場：子供動物園内  
内容：動物を観察しながら、5ヶ所のスタンプを集めてもらう。全問正解者に記念品を配布

## 大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

フジインモン作品展 9月8日(火)～9月13日(日)  
花の折り紙くす玉 展示即売 9月8日(火)～9月13日(日)  
森 力 花の写真展 9月14日(月)～9月20日(日)  
四季彩展 9月14日(月)～9月20日(日)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 第71回見沼塾

『七夕馬作りと昼うどん』

日 時：7月7日（火）10時～12時

会 場：旧坂東家住宅見沼くらしっく館

内 容：片柳地区に伝わる七夕馬作りと七夕の日の昼に  
共食するうどん作りの公開

申 込 み：なし

参 加 費：なし／一般公開

そ の 他：旧坂東家住宅見沼くらしっく館との共同実施です。

問 合 せ：TEL(048)688-3330（くらしっく館）

### 見沼ふれあい農園づくり

日 時：9月12日（土）10時～14時

会 場：埼玉県公有地

行 き 方：最寄のバス停は「宮本2丁目」（浦和駅西口ま  
たは東浦和駅から国際興行バスで）

内 容：秋野菜の種蒔き（1頁ニュース参照）

申 込 み：先着100名、往復葉書で行事名・住所・電  
話番号・氏名（同行者全員）・性別・年齢・  
を明記して見沼たんぼくら事務局へ

参 加 費：無料（昼食・作業手袋は各自持参）

問 合 せ：TEL(048)683-1764（小野）

### 第72回見沼塾

『渋うちわ作り』

日 時：8月4日（火）、5日（水）9時30分～12  
時（全2回）

会 場：浦和くらしの博物館民家園

内 容：柿渋のうちわを作ります。

申 込 み：往復はがき（7月20日まで）

参 加 費：800円（材料費）

そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です。

問 合 せ：TEL(048)878-5025（民家園）

### 特別企画・見沼たんぼ学習交流バスツアー

『座間谷戸山公園の里やま』（神奈川県座間市）

日 時：9月13日（日）7時30分～18時

集 合 地：大宮駅西口ソニックシティ西側向いの歩道

内 容：神奈川県が県立公園として保全した先進的な  
自然緑地を見学します。（1頁ニュース参照）

申 込 み：先着45名、見沼たんぼくら事務局まで

参 加 費：会員¥300（会員外¥500）

問 合 せ：TEL(048)683-1764（小野）

### 第39回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：9月26日（土）9時～12時30分

集合解散：見沼自然公園

行 き 方：大宮駅東口からバス⑦締切橋下車すぐ前  
（大谷県営住宅行き以外の各行き約20分乗車）

コ ー ス：見沼自然公園⇒見沼代用水東縁⇒深井家長屋  
門⇒萬年寺⇒片柳東の斜面林⇒旧坂東家住宅  
見沼くらしっく館⇒加田屋の水圃⇒ヒガンバ  
ナ群生地⇒見沼自然公園

申 込 み：当日、見沼自然公園で8時30分から受付

参 加 費：¥500（会員及び中学生以下は無料）

問 合 せ：TEL(048)683-1764（小野）

### 第73回見沼塾

『紙紐の花籠を作る』

日 時：8月21日（金）9時30分～12時

会 場：浦和くらしの博物館民家園

内 容：紙の紐を使って花籠を作ります。

申 込 み：往復はがき（8月10日まで）

参 加 費：800円（材料費）

そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です。

問 合 せ：TEL(048)878-5025（民家園）

**「見沼たんぼくら」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしま  
しょう！年会費：個人（ファミリー）・団体・法人とも一口¥1,000です。**

〔編集・発行〕見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/